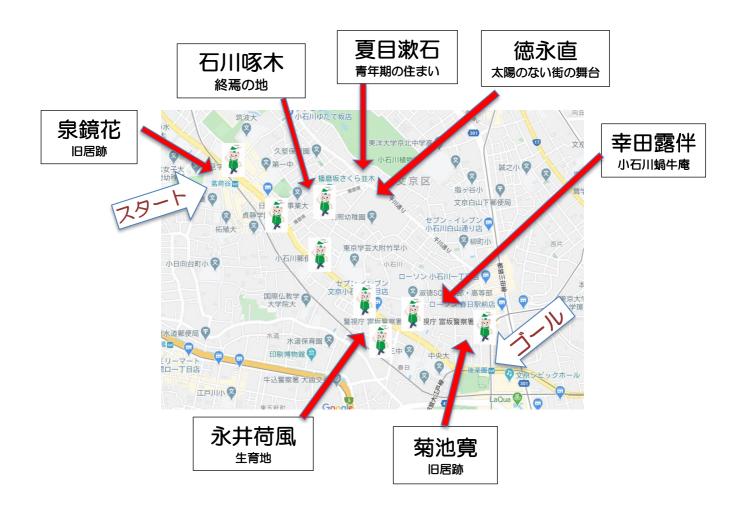
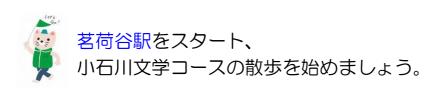
# ⑨ 小石川文学コース

明治から昭和にかけて、多くの文人達が文京区に住んでいました。 この地で、幼少時生活した永井荷風、青年期を過ごした夏目漱石、亡くなった石川啄木など、小石川で生まれ、生活し、創作活動を続けた文人達のゆかりの地を辿りましょう。 約2時間30分 3.2km





## 泉鏡花 旧居跡



中央工事現場:泉鏡花旧居跡



地下鉄茗荷谷駅近く、中央大学予定地(大塚 1-5)には、耽美派の先駆けとなっ た小説家、泉鏡花が、明治29年から31年、祖母、弟と一緒に住んでいまし た。代表作「高野聖」、「婦系図」など。



しばらく、春日通りを歩き、播磨坂手前 を左に折れましょう。

#### 石川啄木 終焉の地

歌人石川啄木の終焉の地です(小石川 5-11)。 啄木は明治41年、金田一京助の住む本郷の蓋



平館別荘に転がり込んでから、弓町の喜之床、最後に久堅町のこの家と、亡くなるまでの 4年間、文京区で移り住み、その間「スバル」を創刊し、「一握の砂」を発刊しました。

石川啄木顕彰室

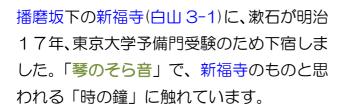
石碑

明治45年4月、父一禎、妻せつ子、 若山牧水に見守られ、この地で亡くな りました。26歳、肺結核でした。 ここには、石川啄木顕彰室がありま す。石碑には、最後の歌が・・・

> 呼吸すれば、 胸のなかにて鳴る音あり 凩よりもさびしきその音!

## 夏目漱石 青年期の住まい

播磨坂中程(小石川 4-16)には、ドイツ語学者、書家で東大の2年先輩の親友、**菅虎雄**が住んでいました。菅は、**夏目漱石**を熊本の五高教授に招くなど、随所で助けました。



漱石は、これから行く傳通院近くの法蔵院にも、明治27年から28年に下宿、東京高等師範学校の英語嘱託講師をしていました。「こころ」、「それから」には、傳通院や近くに住む人物が登場します。





播磨坂 右: 菅虎雄旧居跡



播磨坂下 左奥:新福寺 右工事現場:共同印刷

## 徳永直 太陽のない街の舞台

現在建設工事中の共同印刷には、プロレタリア文学作家、**徳永直**が植字工として勤務 していました。大正15年の共同印刷争議で仲間の170人と共に解雇されました。 この労使紛争を代表作「太陽のない街」に描いています。



吹上坂をのぼり、春日通りに出ます。左にしばらく歩き、 金剛寺坂を下り、左に行きます。



左:永井荷風生育地 右:案内板

#### 永井荷風 生育地

耽美派の小説家、永井荷風が生まれて1 4歳まで育った家が、この地にありました(春日 2-20)。代表作「アメリカ物語」 「墨東綺譚」など。

「狐」、「日和下駄」、「伝通院」などに、 この付近のことが描かれています。



安藤坂に出たら左へ、春日通りを渡ると正面が傳通院です。 右に曲がります。

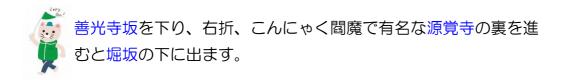
#### 幸田露伴 小石川蝸牛庵跡

昭和2年から18年間、幸田露伴がここ旧小石川蝸牛庵(小石川 3-17)に住んでいました。露伴は坪内逍遥の「小説神髄」で文学に目覚め、「風流仏」、「五重塔」などの作品を発表。尾崎紅葉とともに、明治文学の一時代「紅露時代」を築きました。



旧蝸牛庵前の椋の木

森鴎外、斎藤緑雨と雑誌「めざまし草」に作品批評欄「三人冗語」を設け、樋口一葉の「たけくらべ」を絶賛し、一葉の文名を高めました。



## 菊池寛旧居跡



堀坂 坂中程: 菊池寛旧居跡

菊池寛は大正7年から堀坂の中程 (小石川 2-4)に1年半ほど住み、 代表作「恩讐の彼方に」を書きま した。文藝春秋社を創設、芥川賞、 直木賞を創設、大映初代社長など 多様な活躍をしました。

「恩讐の彼方に」、「無名作家の日記」、「父帰る」などの純文学から、 通俗小説まで幅広く作品を残しま した。



ゴールの後楽園はすぐそこです。

今日のお散歩はこれでおしまいです。 文京区には、他にも文人達ゆかりの地がたくさんあります。 そちらにも是非、足をお運び下さい。

ガイドツアーのお申し込みはこちら